

酒田市総合計画審議会 第1回産業交流部会 議事要旨

1 日時

令和3年10月27日(水) 19:00~21:00

2 場所

酒田市役所第一・第二委員会室

3 出席者

【酒田市総合計画審議会 産業交流部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議副会頭	高橋 幸雄	部会長
酒田青年会議所直前理事長	佐藤 愛	副部会長
荒生木材有限会社	荒生 麻夕美	
株式会社良品計画 無印良品酒田 POP-UP STORE 店長	石田 佳奈子	
酒田市袖浦農業協同組合理事参事	佐藤 久則	
連合山形酒田飽海地域協議会議長	佐藤 克	
庄内みどり農業協同組合理事	高橋 身依	
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	
山形県漁業協同組合専務理事	西村 盛	
東北公益文科大学公益学部長	三木 潤一	
The Hidden Japan 合同会社代表	山科 沙織	

【酒田市】

副市長、地域創生部長、地域創生部産業振興調整監、建設部長(代理:整備課長)、農林水産部長、上下水道部長、上下水道部広域連携推進調整監、建築課長、企画部長、企画部デジタル変革調整監、CDO補佐官、企画調整課長、企画調整課職員

4 開会

- ・事務局より出席委員は11人であり委員定数12人の半数以上であることから、会議が成立することを報告

5 あいさつ

産業交流部会長 高橋 幸雄

酒田市副市長 矢口 明子

【高橋部会長】

石炭火力のことについて申し上げたい。日本では、2030年に発電効率の悪い石炭火力を止めることが決まっている。発電効率43%を目安として、その値を超えないと止めてしまうという話が出た。2019年時点で43%をクリアできるのは、150のうち2つしかない。酒田共同火力の石炭の貨物量については、210万トンくらいあると思われるが、酒田港全体の60%を占める。酒田港にとっては、石炭火力を止められると大変なことになる。基準をクリアできる規模の発電所を建て替えるところが少し出てきた。何としても、新しい発電効率の高いものに切り替えて、そのまま残してもらいたい。そのようなことを期待している。木材（木質バイオマス）はゼロ計算としているが、もともと石炭は木である。なぜ、石炭は駄目で、木材はゼロなのか、EUでは訴訟問題になっている。バイオマス発電で小さな木をどんどん燃やしているわけだが、酸素をあまり供給しない小さな木を切ってしまうということで、石炭とどこが違うのかという話も出ている。どのようになるのか分からない。経済産業省では、原発で止めないで済むと考えているようだ。そのようなことで、エネルギーは非常に乏しくなっていて、冬場のエネルギーが足りなくなるということで騒いでいるようだ。ヨーロッパにしてみれば、ロシアからのガスが止まると大変だということで大騒ぎしている。いずれにしても、我々としては、省エネ生活も考えながら、生きていかなければならないと思ったところである。今日は、細かく説明があると思うが、皆さまから意見をいただきたいと思うので、協力をお願いしたい。

【矢口副市長】

総合計画は、2018年度から10年の計画であり、今ちょうど3年半が経ったところで、後期5年の計画を見直したい。そのためには、まずは現状における課題を洗い出すということで、今日示すのは庁内の叩き台である。現状における課題を中心に皆さまの意見をちょうだいして、何度かやりとりして進めていきたい。どうぞよろしく願います。

6 議事内容

(1) 酒田市総合計画〔基本計画2018-2022〕の進捗状況

(2) 現状における課題

- ・ 共通資料、部会資料に沿って事務局より説明
- ・ 今回提示した「現状における課題」については、現計画の柱立てに沿って関係部課と協議しながら取りまとめたものであり、今後、基本構想、基本計画の策定を進めるにあたって、審議会委員と共通認識を持つために策定したもの。
- ・ 本資料は現時点のものであり、今後委員の意見を取り入れるとともに、必要に応じ各種データを追加し改訂版として取りまとめたいと考えている。

○現状における課題についての質疑・意見等

【サンロクの法人化】

(委員) 酒田市産業振興まちづくりセンター「サンロク」の法人化を検討するとあるが、その理由とメリットは何か。今実施している事業について法人格が必要な場合があるのか。法人化となれば独立採算が基本となる。市からの補助金、委託料等に縛りが出てくるので、そのことについて説明してほしい。また、類似の事業を行う法人はあるのか。

⇒ (地域創生部産業振興調整監) サンロクは、農業、漁業、ものづくり企業、サービス業などあらゆる分野の事業者の商品開発、サービス開発、販路拡大、人材確保等のサポートをしている機関である。その中で、サンロクの機能の一部を法人化する必要があると考えているところである。今実施していることは、公的な仕事と認識している。一方で個人の女性のスキルをアップして、その個人の女性にITスキルを獲得してもらうような事業だが、そのITスキルを活用して市内外の事業者から仕事を取ってきて仕事をしてもらうということを考えている。その際にサンロクが中間的な立ち位置として、サンロクが事業者から仕事を受注して市内の女性に再委託・雇用の形で仕事をしてもらうことを考えていて、その部分はビジネスであると考えている。公的な立場のままでもやるのがいいのかどうか。引き続き公的な位置づけでやることも可能だと思っているし、それをビジネスとして法人化して切り出すことも検討の余地があると考えている。類似法人としては、ライトハウスがある。ライトハウスとは日ごろから勉強させてもらっているが、サンロクは補完的關係にあると考えている。ライトハウスが対象としているのは、年商1億円以上を稼ぐベンチャーへの支援である。一方、サンロクは、ベンチャーの支援、創業のサポートも行うが、以前から市内で事業をしている農業、林業、モノづくり、サービス、個人のサポートを幅広く行うことで役割分担していると考えている。我々に相談来た人でもライトハウスに相談したほうが良いと考えた人にはライトハウスを紹介しているし、逆にライトハウスから案件をもらうこともある。そういう連携関係にある。

【林業の再造林について】

(委員) 補助事業として、間伐、皆伐、森林整備をやっている。これまでは間伐の事業に補助金が多く出ていたが、今は再造林に補助金が大きく移行している。皆伐すると10年下刈りして木を育てないといけない。その下刈りをする事業者が庄内には少なく、にかほ市の事業者に対応してもらっている。年配の人で下刈りをしてくれる事業者はいるが、夏の暑い時期は体力勝負なので、再造林を進めていくには若い人で下刈りをする事業者を作りたい。若い人でないといけない仕事なので、そこはものすごく課題だ。下刈りの事業者を他県に頼まなくてはならないということは課題だと思う。若い人にそういう仕事についてもらうにはどうしたらいいかと考えている。

⇒ (農林水産部長) 再造林が多くなって、下刈りの事業者が少ないということだったが、この課題は初めて聞いた。この課題は、後期計画に示していければいいと思う。地元で循環できるような事業者の体制は大事だと思う。

【働く女性の活躍推進、高年齢者の就労確保】

(委員) 私の働く店舗は、ほぼ市内在住の女性が勤務している。総合計画の目標として「酒田に住み続けたい」という満足度調査結果が、すごくいい数値だと思った。店舗で働いているスタッフは10代から50代までいて、「酒田に住み続けたいか」と聞いたことがあるが、40代、50代は住み続けたいというが、10代、20代の学生のスタッフは住み続けたいと思わないとみんな言う。そのため、このアンケート結果の数値がすごく高いのが私は違和感を覚えている。現状における課題として働く女性の活躍推進に向けた具体的な環境を整えるために考えていることがあれば教えてほしい。

⇒ (地域創生部長) 女性が住み続けたいというところに対する施策について、本市では、「日本一女性が働きやすいまち」を実現するためにその目標として、厚生労働省が女性活躍推進企業認定「えるぼし認定」の制度がある。それを全国、本市と同じような規模の自治体の中でトップを目指そうと、そのためには、えるぼし認定企業が8～9社というところである。先日、四ツ葉ドレスが認定を受けて、市内で3つの事業者が認定を受けている。これに合わせて、女性が働きやすいということで企業の理解と協力を得るため、「日本一女性が働きやすいまち宣言に賛同するリーダーの会」を設立している。今、40社ほどに増えているが、現実的に女性、特に若い人が酒田で事業、生活をしていきたいということになると、収入の確保、働く場所も必要である。企業誘致という部分では、京田西工業団地はほぼ満杯であり、(株)プレステージ・インターナショナルも入っており、女性が働きやすい環境も提供している。また、製造業以外でもIT事業者もターゲットにして誘致を進めている。そういうことを進めながら、女性も酒田で住み続けられるようなまちにしていければと考えている。本日リーダーの会のチラシも配布している。こういう活動も理解をいただきながら進めていきたい。

⇒ (副市長) 働く女性の部分に関して記載が少なく、どういう部分に力を入れているのか、働く女性がどういう状況に置かれているのか、また、高年齢者の状況など次回までに記載を修正したい。

【洋上風力発電】

(委員) 洋上風力について、酒田港を拠点港にしてという部分について、洋上風力がない今でも酒田北港に風車の部材がいっぱいある。これから遊佐沖の話が進んで法定協議会ができるかというところで、今後10年で何本立つのかという話にもなる。そうすると、今の酒田北港の洋上風力に充てられている面積で足りるのか。酒田北港と本港地区は県の管轄である。酒田市と県とで密接な連絡を取ってもらってすり合わせてもらいたい。港湾計画の改訂の話もあったが、山形県漁業協同組合は酒田市から助成をもらって県外船の誘致もしている。しかし、その中で、県外船は酒田港が浅いから入りにくいと言われる。冷凍のイカを造る船は常時電気を起こして冷凍機を回している。すると、エンジンはかけっぱなしで、エンジンを冷やすために常時港の中の水を船の中に汲み上げて、機械を冷やして冷凍機を回している。浅いとその水の取り入れ口が詰まってしまう。すると、酒田港に入ってきて誰も一人二人は必ず船にいないといけないので、酒田に行きたくないというのが本音だそうだ。そうい

うことも含めて港湾計画の改訂も、水深の確保やスペックも、酒田市が希望しても港湾は県の管轄なので、そういうところも連絡を密にして進めてもらいたい。

⇒（地域創生部長）国の動きもあり、国はカーボンニュートラル検討委員会を設置しているし、県と酒田市では同様に意見交換できるような会も準備している。県の空港港湾課等と連携して進めていきたい。また、港湾計画の改訂についても、現段階で洋上風力の動きに合わせて、基地港湾、あるいはカーボンニュートラルポートということも踏まえて進めていくということだ。そのなかで今の課題も県と共有しながら進めていきたい。

【企業立地の促進】

（委員）産業が全体をけん引するという仕組み、賑わいがあるということが重要。まちに職場があって、新卒者が定着している、あるいは外から人が来るというのが、一番の起爆剤だと思うが、今回いろんな産業、項目の中で、一番経済効果の大きい実現性のあるものといった場合に、再生可能エネルギー関連じゃないかと考えているという話を聞いた。それらの実現性と、企業立地の促進の実績に「再生可能エネルギー産業と酒田港の利活用促進に効果の高い企業2件」とあるが、なぜ酒田に立地しようとしたのか聞きたい。

⇒（地域創生部長）再生可能エネルギー関連産業だが、本市は、古くは太陽の家（光ヶ丘）を建設し、太陽光を使って維持管理をするところもある。波力発電といって波の力で発電する実験も試みてきた歴史がある。現在は、風力もあれば、太陽光、バイオマス、洋上風力、小水力もある。そういう意味では本市は、再生可能エネルギーの宝庫ともいえるほど、非常に多くの種類がある。そういう中で、洋上風力も含めて動きが出てきているところである。酒田共同火力発電の話もあったが、石炭にアンモニア等を混ぜて効率化を目指してそこで事業をしていくというようなことも考えられる。あるいは水素エネルギーや、もう少し先の話になると思うが、アライドマテリアルという企業では核融合の実験炉の部材を製造している。今、そのような面白い動きが酒田の中で動いている。そういった状況が企業誘致にもつながっていると思っている。

【働く女性の活躍促進、農業の6次産業化】

（委員）6ページの働く女性の活躍推進について、働きやすさだけではなく、女性が働いて帰ってきて家事も全部やるとなると、寝る暇も休む暇もなく働くことになる。私は農業だが、意識が男性だけではなく、私の両親の世代も女性が家事をして仕事はそんなにしなくてもいいので、家のことをしっかりしてほしいと思っている。私は仕事がすごく好きなので、仕事をしたいというジェネレーションギャップに苦しめられている。家事をしっかりしてから仕事をしろという感じだが、その意識改革は、男性、女性、自分の母親世代、自分も含めて必要だと思っている。それを10代、20代の子どもが私を見て、「お母さんの代わりになるのは嫌だ」と言って出ていくのは目に見えている。私も実はそれが嫌で本市から出たが、10年くらいたって忘れて帰ってきたが、帰ってくるとこちらはそういう状況だと思い出した。意識改革をして、働くことが好きな女性が働けるような酒田になってほしいと思う。これは各家の問題ではなく社会の問題、仕組みの問題だと思っている。そこを変えていったら、すごく

いい酒田になると思う。それと、農業について、8ページの農商工観連携の推進について、農業の6次産業化を目指していて、今60～80歳ぐらいの第一世代という方が6次産業化で加工所を造ったが、高齢化でやめる人が多くなっている。また、商品が定番化して、以前はたくさんの種類を作っていたが、今は2種類とかになっている。それは、時間の問題で消えていってしまう。後に続く人が少なくなっていて、技術が継承されず商品が消えてしまうのではないかと危惧している。それをうまく食品産業の人とつなげられたらいいと思う。食品産業のプロだと衛生管理等しっかりしているので、農産物の特産品が作れるのではないかと。それをふるさと納税やウェブなど新たなツールを活用したりしてできるのではないかと考えた。

⇒（地域創生部長）家庭、家族、家制度というか、そういった中で女性が働きやすい環境をつくっていくことについて意識改革をしていかないといけない、そのための行動変容を促すということで我々は「日本一女性が働きやすいまち」というのは、職場も女性も家庭も3つに分けて、それぞれ行動変容を促そうということをねらっている。本日は準備していないが、今年から「家族みんなが笑顔になる家事シェアのすすめ」というチェックシートのようなものを子どもを通して配布し、子どもから保護者に届くようにして、その家の中でみんな共有してもらって、どういう社会になっていくのかを考えてもらいたいと思って実施している。男性・地域をねらいにして、固定的役割分担の意識や無意識の偏見を解消するためのきっかけになっていけばいいと考えている。

⇒（農林水産部長）農業の6次産業化の件について、昨年本市が行ったガバメントクラウドファンディングは委員のSNSでの発信がきっかけで成功したと聞いている。委員からはいろいろ協力してもらい感謝している。6次産業化の課題として技術の継承については大変苦労していると思っている。サンロクとも連携できるし、農協、企業との連携も考えられると思う。課題として受け止めたい。

⇒（副市長）地域創生部長が言ったとおりだが、女性が出ていく理由の一つが地方都市の男女平等でない保守的な価値観があるということはエビデンスとして出てくるので、それを変えることが必要で、先ほど委員が言った「住み続けたい」と思う人がなぜこんなに多いのかは、高齢者は住み続けるしかないからだと思う。本市は高齢化率が35%を超えているので、普通にアンケートを取れば、その人たちは住み続けるしかないのでは、数値が高く出ていると考えている。若い人だけアンケートを取ったら違う結果になるのではないかとするのはその通りだと思う。

【観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進】

（委員）追加する視点について、この総合計画が策定された頃は、コロナがなかった。ここ2年、観光など痛手を受けてないところは無い。やはりコロナがなくなって、さあ物事を転がしましょうでは、遅いと思う。今のうちに、何ができるのかということ。確か、酒田市には外国人が数百名いるが、その方たちにSNSを活用して酒田のことを発信してもらうことは、非常に効果が高いのではないかと。実は、漁業協同組合でインドネシア共和国から実習生を受け入れている。彼らのSNSを見ると、やはり酒田の良いところが映っている。そういった

ところは、利用した方が良いと思う。

⇒（地域創生部長）コロナの後の観光については、すぐに酒田で情報発信をしたからといって、伝わり続けて、すぐに来客が大勢になるということは、なかなか大変だと思う。現在、酒田市内の外国籍の方は、中国・ヴェトナム・韓国の方がそれぞれ百名を超えるくらいで、全体で4百数十名の方がいる。この三か国を中心に、酒田市国際交流サロンで日本語などを学んでいるが、そういった機会を捉えて、情報発信いただけないかということ相談したい。

【移住定住対策の推進】

（委員）資料13ページ、施策「移住定住対策の推進」、現状における課題④の文中「地方居住」とあるが、正しくは「移住」ではないか。このたびの新型コロナの感染拡大で、東京一極集中にリスクがあるということ、中央に住む人も地方に住む人も感じていると思う。地方回帰の流れはできてきていると言っていいのではないか。条件さえ整えば、自分の故郷で暮らしたいと考える人が一定数以上いると思う。確かに、酒田市で移住者・定住者を増加させる施策はいいが、庄内2市3町で力を集約して庄内地域を売り込むとか、移住と転職をセットにした施策、支援策も考えられると思う。同じく13ページに掲載の成果指標「人口に対する社会減」は、進捗率126%で順調という評価になっているが、これに満足することなく、現状における課題④については、より強力な施策をお願いしたい。

⇒（地域創生部長）やはり、コロナで都会から地方へという動きは、非常に高まっているものと思う。先月（9月）の月上旬、テレワークが推進されている自治体として、酒田市が全国で第2位、彦根市が第1位という評価をいただいたところである。こういったところを手掛かりとして、酒田に興味をもった企業からの連絡をいただいた。IT関係の事業者になるが、酒田市にランチ・支店を設けて、入社した方が若い頃は東京で修業するというか、技術力をつけて30代～40代になったら酒田に戻ってこれるという企業も現れてきている。誘致をさせていただいているところだが、そのような活動も強力に進めていきたいと考えている。

【移住定住対策の推進】

（委員）同じ現状における課題④のところ、情報共有させていただきたい。私は、昨年末（2020年末）に東京からこちら（酒田市）に移住した。勤務の中で、酒田市内の高校、酒田東高校・酒田光陵高校、酒田南高校などの高校生と雑談会をする機会が今まで何度かあった。その時に、酒田に残り続けたいか、酒田で働きたいかということ聞いた際に、酒田は好きで住み続けたいが、自分が働きたい会社が無い、働きたい場所が無いと思うから、将来的には他の県に大学に行く、他の県で就職すると思う子が非常に多かった。実際に、私の店舗にいる大学4年生の一人が来年から東京の企業に就職する。その子も、酒田がとても好きだが、自分の働きたい場所が見つけられなかったと言っている。そういった若い世代の方たちが、酒田の魅力を知りながらも、そこで働く場所を見つけれないという声があった。そういった方々に対して、今誘致している企業であったり、そのような企業があるということ伝える

場があればよいと思う。

⇒（地域創生部長）若い方々に対して、酒田の企業、どのくらいの企業がどのような活動をしているかという情報を、どのように丁寧に伝えるかということも大きな課題であると思っている。現在、例えば高校生の場合、バスツアーなど保護者の皆さんと企業を訪問して、情報を取得してもらっている。今年度も行う予定であるが、どちらかという、一方的に行政がメニュー、この企業に行ったらどうかということでコースをつくって企業訪問をしている。それよりも、もう少し学生が自分で調べて、こういった企業に行きたいという声を聴いてから、あらためて企業訪問をしていただく。事前に酒田のことを調べて、自分たちで行ってみたいというところに行っていただく。そのようなことも、今後、考えていきたいと思う。

【雇用のミスマッチ解消、地元定着の促進】

（委員）先ほどの共同火力の話も、いろいろと訴えているところである。一方で、実は、私は高校の教員である。毎日のように、生徒と進路の話をしている。酒田のことが好きだが、希望する仕事がないと考える生徒が実に多い。先ほどから出ている話、これからリモートワークが進むという流れになるのだと思うが、家で仕事ができるからといって、酒田に住む話ではないということを押さえておかなければならないと思う。まち自身に対して、彼らがどのような関わり方をするか、そのようなことを大人が準備できるか、行政が仕掛けをつくることができるかということ。今の部分でよく出てくる「雇用のミスマッチ」という言葉があるが、違和感がある。行政の方も、地域の事業所や企業を一生懸命紹介してもらって、生徒もそれに向かって、いろいろと行っている。我々、ミスマッチとして捉えがちだが、すぐに辞める生徒がいるのも現実である。高校生が就職しても、以前のように、20～30人を大量採用するような時代ではなく、それぞれのセクションがある。採用となり、その職場についても、自分と同世代なのは1～2人、みんな先輩ということ。その先輩が、高校を出たばかりの子どもたちを育てられるか、へこたれているというのが現実だとみている。高校の教員としては、長い目で育ててほしいという思いがある。子どもたちが、まちの魅力を感じるためにも、交流や場所とかチャンスについて行政で準備できるのではないかと思う。このことは、職場でなかなか話し相手が見つからない子どもたちへの支援にもつながる。また、地域の祭りなどをとつても、どんどん担い手がなくなってきている。そういった子どもたちに活躍してもらおうという視点で、地域で子どもを育てていくということを付け加えさせてもらった。

【観光の振興】

（委員）資料14ページのところで、ここでマイクロツーリズムの話が出た。これまで、インバウンドの旅行を受け入れていたが、今までリクエストのなかった県内からのツアーの申し込みが結構出てきている。ウィズコロナのなか、酒田のもつ自然を使ったアクティビティ、例えば、釣りやサイクリングといったツアーの問い合わせが増えていることから、今後、インバウンドだけでなく、マイクロツーリズムなど酒田での観光プログラムをつくることは良いかと思う。ただ、現状の酒田の観光を考えると、結構、日中で出来てしまう。例えば、相馬楼

に行っ、山王くらぶに行っ、本間美術館に行っ、ラーメンを食べても、日中で終わっしてしまう。そこから泊まろうとして、温泉地のある他の地域に行っしてしまうことが結構あると思う。酒田の滞在時間や消費の拡大につなげるには、夜もしくは早朝のアクティビティを増やすことも一つかと思う。また、資料に書いてある酒田ならではの観光プログラムの開発ということで、例えば、複数日に及ぶ長い行程のツアーなどの開発も進めていくのが良いかと思う。

⇒（地域創生部長）私たち行政の視点と観光のプロの視点ということで、観光のプロの皆さんから行政に教えていただきながら進めていければと思っている。観光消費額を増やすためには、当然、宿泊ということ、飲食も伴うので、私どもそういったことも考えている。例えば、夜に酒田にいる必然性をつくるために、酒の字を冠する酒田市であり、七蔵があるので、酒を観光の素材として扱わせてもらっている。また、夜間景観、山居倉庫なども踏まえて、今現在も旧割烹小幡、日和山小幡楼も含めて日和山周辺で夜間景観をつくっている。このように、夜も酒田は楽しいんだよといったことも観光事業の一つとして進めていきたいと思っている。ぜひ、協力をしながら、酒田の観光を盛り上げていければと思っている。

【基本目標（市民所得）、2・3・6章全般】

（委員）2章、3章に関して、酒田が潤う仕組みづくりが大切だと思う。所得が4年間で30万円超増加していると記載されているが、なぜ増えたのかの要因はどう分析しているのか伺いたい。2章のところに関して、洋上風力発電の話があったが、洋上風力発電は大きなお金が動くにも関わらず、必ずしも地元が潤うわけではない。庄内から県外に漏出してしまい、経済効果という意味ではそれほど大きくないとみられる。何とか地元でお金が回るような仕組みづくりについてアイデアを持っている先生の話聞いたことがある。それも反映できればいい。風力発電は、再生可能エネルギーといった観点から重要であるが、お金が地元へ落ちるような視点を強調すべきかと思う。観光についてだが、酒田市から、観光のアンケート調査を受託して3年が経過し、傾向が明らかになってきた。観光客の満足度は、酒田でお金を使うほど低くなり、宿泊するほど低くなるという分析結果が得られている。例えば、お昼にラーメンを食べて、夜は他所に行くとも満足度が高いというような残念な結果になっている。夜の観光が奈良県でも課題になっていて、地元にお金が落ちないということが共通している。観光資源が奈良県とは異なるが、地元にお金が落ちる仕組みが重要な視点だと思う。最後の6章の持続可能なまちづくりについては、インフラの更新が深刻な話であり、どう資産管理をしていくかは、昨日の行財政部会でも大きな課題だと話したところである。問題だと思っ、でも、どうするかという方向性を具体的に示すことは難しいと承知しているが、コンパクトシティを目指すとか強い方向性を打ち出すことが良いと思っている。

⇒（企画調整課長）1人当たりの市民所得が上がっている要因については、分析していないが、総合計画の11ページに市民所得の内訳と人口の推移のグラフを掲載している。総合計画を作った当時の資料だが、この市民所得については、オレンジの部分は雇用者に対する報酬や諸手当の支払いが積みあがったもので、水色の部分は財産所得になり、金融資産、

土地などの賃料に当たる。緑の部分が企業の所得に当たる。5年前に分析したのが、オレンジの部分、雇用者の報酬は2001年から2014年までずっと下がり続けている。一方2009年から2014年の間、企業所得については増加傾向にある。こういった分析を2015年以降実施していないため、次回までに分析をしてお示ししたい。

⇒（地域創生部長）洋上風力と観光については、地元に移ぎが落ちる事業でなければいけないと思っている。なぜやるのかも踏まえてしっかりと取り組みたい。

【6章全般、地域課題解決に向けたICT・IoTの活用】

（委員）第6章について意見を述べたい。インフラについて、第2章で出てきたカーボンニュートラルだが、二酸化炭素の排出量のおよそ3割が産業系と言われていて、インフラの整備が進んでいくことでカーボンニュートラルの目線からも効果があるのではないかと思う。1つ疑問だったのが、4番の①に窓口のキャッシュレス化はなぜ進んでいないのか。

⇒（企画部デジタル変革調整監）今、庁内調整を進めているところで、間もなく市民課と出納課の窓口へポスレジを導入するところである。そこで、年金の収納や、クレジットカード、交通系IC、QRコード決済が活用できるようになる。それ以外の窓口でのキャッシュレス化は、そこは決済代行収納業者さんや、法人の登録の関係等、なかなか進んでいない状況である。この度市民課に導入するポスレジを契機に全庁的に進めていきたい。少し時間をいただきたいと考えている。

（副市長あいさつ）

お疲れのところ出席いただき、ご意見をいただきありがたい。まだ言いたいことが沢山あるかと思うので、ぜひこれからまたご意見をいただければと思う。ここからは職員に向けてだが、いただいたご意見を取り入れていただきたい。また、なぜそういう課題が出てきたのか分析してほしい。2018年度から3年間もやっているのになぜまだこういう課題があるのか。そういう分析をしたうえで、どういう政策をすればいいのか、しっかりやっていきたい。当然、今までと同じ政策ではだめだということだと思う。それに基づいて予算の要求をしていくということになる。今までと一緒にだめだという気持ちで、本当の理由を探してほしい。それから目的、目標を再確認してもらいたい。指標も直さなくてはならない所もたくさんある。これからもご意見をいただけたらありがたい。これからもよろしくお願ひしたい。

7 その他

（委員）産業交流部会の日時が夜だが、私は日中のほうがいいが、どうか。

⇒（企画部長）調整に時間をいただきたい。

○連絡事項（事務局より）

- ・ 次回の部会の日程は改めて日程調整をさせていただく。
- ・ 現状と課題の議論について、後日、委員の皆さんから個々に話を聞く機会を設けさせていただきたい。別途連絡する。

8 閉会

以上